

連続講座

万博記念展「大坂から大阪 住まいのか・た・ち」関連企画

大阪、都市居住文化の醸成

—都市居住文化の400年にわたる変遷を振り返る—

大阪くらしの今昔館で開催する万博記念展「大坂から大阪住まいのか・た・ち」をより楽しむため、展示にかかわる3名の講師をお招きし連続講座を開催します。



第1回 令和7年 5月17日(土) 13:30~15:00 (開場13:00)



講師

「知らなかった！大坂蔵屋敷あれこれ」

植松 清志氏
大阪くらしの今昔館
特別研究員

大坂蔵屋敷は、幕末には中之島を中心に100余あり、国元では大坂屋敷とよばれ、蔵物（年貢米などの諸物資）の販売などを行いました。ことに西国の蔵屋敷には藩主の御殿もありましたが、不明な点が多くあります。本講座では、古写真や現存遺構、絵画などから蔵屋敷のイメージを示し、実例から、その変遷、屋敷構成や機能の変化、大坂との関連などを紹介します。

第2回 令和7年 5月31日(土) 13:30~15:00 (開場13:00)



講師

「江戸時代住友家の本店と抱屋敷」

海原 亮氏
住友史料館副館長

江戸時代、銅精錬と金融業で栄えた「泉屋」住友家は、長堀茂左衛門町（豊谷）に本店と工場を構えました。今回の万博記念展でとりあげる、幕末文久期の本店絵図をもとに、隣接する銅精錬工場だけでなく居住空間についても解説し、豪商の暮らしぶりにも触れます。また、住友史料館で保管する歴史資料をご紹介します。住友家が「大坂市中で手広く経営した「抱屋敷」（町人居住用の借家）のようすと、都市大坂の人びとの生活を眺めてみましょう。

第3回 令和7年 6月14日(土) 13:30~15:00 (開場13:00)



講師

「大阪市がつくった近代住宅」

中嶋 節子氏
京都大学大学院
人間・環境学研究所教授

戦前から戦後にかけての大阪市は、住宅政策、都市政策において全国をリードする存在でした。市営住宅もそのひとつです。土地区画整理事業が進む郊外地に建てられた戸建住宅、都市部の居住環境を刷新する鉄筋コンクリート造集合住宅、戦後の住宅難を解消するための住宅団地など、先端的な住宅を数多く建設してきました。こうした市による名住宅を紹介します。

お問い合わせ：
大阪市立住まい情報センター
〒530-0041 大阪市北区天神橋 6-4-20
TEL.06-6242-1160

会場：大阪市立住まい情報センター3階ホール
定員：各回会場100名（いずれも申込先着順）
主催：大阪市立住まい情報センター
参加費：無料

※申込方法は裏面をご覧ください
お申し込みは、「おおさか・あんじゆ・ネット」から
<https://www.osaka-angenet.jp/>

